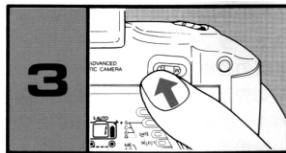
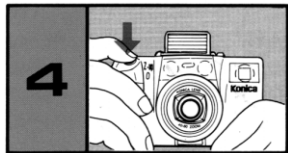
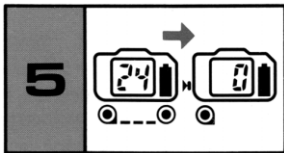
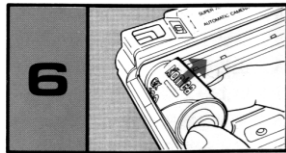
Konica Z-up80

〔zi:ʌp〕

使用説明書

撮影の手順

フィルムを入れ裏ぶたを閉じます。

メインスイッチをONにします。（フラッシュは自動的にスイングアップします。）

ファインダーをのぞき、レンズをズーミングして画角を決めます。

シャッターボタンを押して撮影します。暗いときはフラッシュ撮影に自動切替え。

フィルムが終わると自動的に巻き戻されます。

裏ぶたを開けフィルムを取り出します。

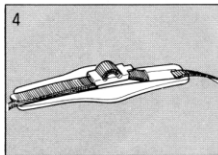
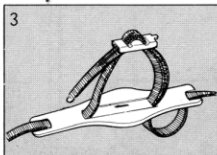
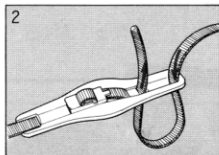
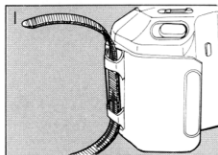
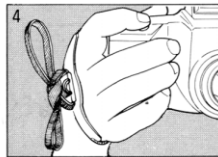
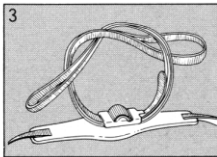
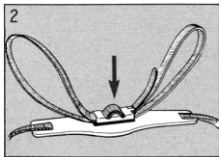
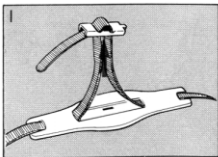
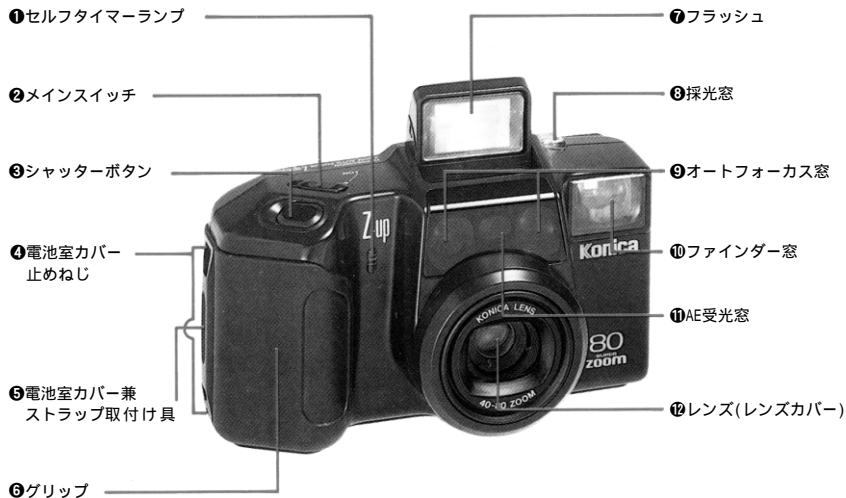
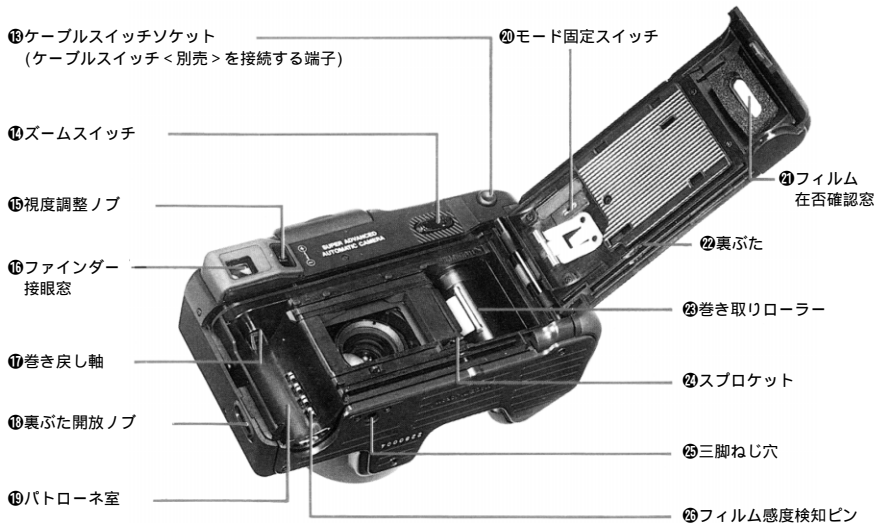
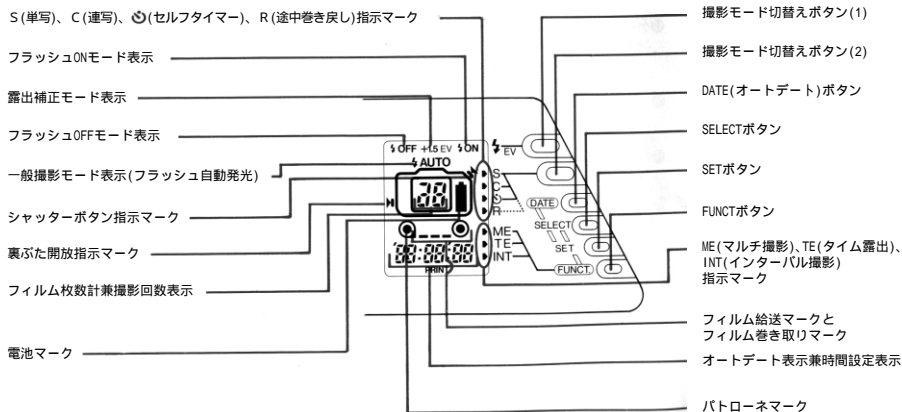
ストラップの取付け方

ネックストラップとして使用

リストストラップとして使用

各部の名称

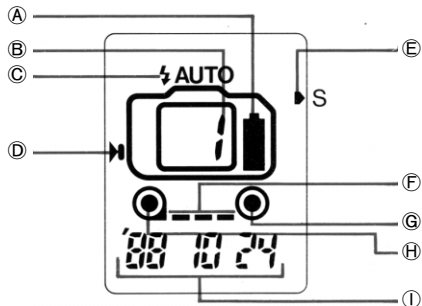
❶セルフタイマーランプ
❷メインスイッチ
❸シャッターボタン
❹電池室カバー止めねじ
❺電池室カバー兼ストラップ取付け具
❻グリップ
❼フラッシュ
❽採光窓
❾オートフォーカス窓
❿ファインダー窓
⓫AE受光窓
⓬レンズ(レンズカバー)
Z up
Konica
KONICA LENS
80 SUPER ZOOM

⑬ケーブルスイッチソケット
(ケーブルスイッチ＜別売＞を接続する端子)
⑭ズームスイッチ
⑮視度調整ノブ
⑯ファインダー接眼窓
⑰巻き戻し軸
⑱裏ぶた開放ノブ
⑲パトローネ室
⑳モード固定スイッチ
㉑フィルム在否確認窓
㉒裏ぶた
㉓巻き取りローラー
㉔スプロケット
㉕三脚ねじ穴
㉖フィルム感度検知ピン
SUPER ADVANCED
AUTOMATIC CAMERA

撮影表示パネル各部の名称

(図にはすべての液晶を表示してあります)

パネル表示が複雑で覚えるのが大変という方へ

このカメラは、高級一眼レフあるいはそれ以上に意図的な応用撮影のできる多機能タイプで、６つの切替えボタンによる多数のモードが設定されています。
しかもこの撮影表示パネルには、すべての撮影情報と様々な機能の表示が集中しています。
しかし普通に撮影する際の情報としては、このうちの**Ｓ(単写)指示マーク・一般撮影モード表示・裏ぶた開放指示マーク・フィルム枚数計・電池マーク・フィルム給送マーク・フィルム巻き取りマーク・オートデート・パトローネマーク**をチェックしてください。

パネル表示が複雑で覚えるのが大変という方は、まず「一般撮影」編をお読みになり、一般撮影をしてください。そして応用的な撮影をお望みの場合に、それぞれの項目をお読みになれば、自然にこのカメラをマスターすることができます。

一般撮影

一般撮影で必要なパネルチェック

Ⓐ **電池マーク(▮)**：電源チェック用。電池が消耗すると1/2白くなり、さらに消耗すると点滅して電池交換を指示、全部白くなると作動が停止します。
新しい電池を入れると点灯します。

Ⓑ**フィルム枚数計**：撮影ごとに数字が増えて撮影枚数を示し、巻き戻し時には逆算表示されます。

Ⓒ **一般撮影モード表示(ϟ AUTO)**：日中はAE撮影、夜間室内や逆光時はフラッシュが自動発光します.

Ⓓ **裏ぶた開放指示マーク(▶▮)**：フィルムが正しく入っていないとき、フィルムの巻き戻し完了時(途中巻き戻し完了時にも)点滅した後点灯し、裏ぶたを開けてフィルムを取り出すよう指示します。

Ⓔ **Ｓ(単写)指示マーク**：シャッターボタンを一度押すと１コマ撮影される通常のモードです。

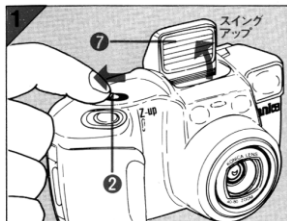
Ⓕ **フィルム給送マーク(━━━)**：フィルムが正しくオートロードされたとき、撮影ごとに巻き上げられたとき、巻き戻し時にそれぞれの方向に順次点灯します。

Ⓖ **フィルム巻き取りマーク(◉)**：フィルムが正しく巻かれているときに表示されます。

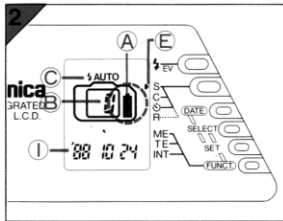
Ⓗ**パトローネマーク(◙)**：フィルム給送マークと共に点灯し、巻き戻し終了後も点灯してパトローネがカメラのなかに残っていることを示します。
またフィルムのミスセット時には点滅します。

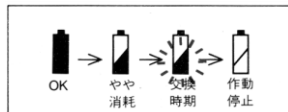
Ⓘ **オートデートの日付、時刻表示**：メインスイッチOFF時にも表示されます。

1．まず電池の確認をしましょう

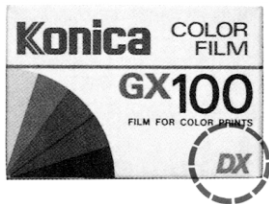
このカメラには、すでに電池が
入っています。

1) メインスイッチ❷をスライドして電源ONにします。(フラッシュ❼がスイングアップします。)
次の確認をしてください。

＊ **電源OFFにするには…**
フラッシュを閉じます。

使用電池は、リチウム電池(2CR5：6V)
1コで、すべての機構を作動させます。

2) 撮影表示パネルの電池マークⒶが点灯して、黒くなっていれば電池はOKです。

＊ 撮影表示パネルには、このほか
Ⓑ 0フィルム枚数計)
Ⓒ AUTO(一般撮影モード)
Ⓓ S(単写)を指示する ▶指標
① オートデートの日付、時刻
が点灯しています。

電池交換の時期

電池が消耗すると、まず電池マークⒶが1/2白くなり、次いで点滅を始めます。電池マークの点滅は電池交換を指示する信号ですから、点滅を始めたらすぐに同じタイプの新しい電池と交換してください。電池がさらに消耗して電池マークが白くなると、すべての作動が停止します。

2．フィルム感度について

このカメラは、DXコードの付いたパトローネ入り35mm(135)フィルムを使用します。フィルムをカメラに入れると同時に、使用フィルムの感度(ISO 50〜3200)が自動的にセットされます。

＊ DXコードのないフィルムは、すべてISO100に設定されます。

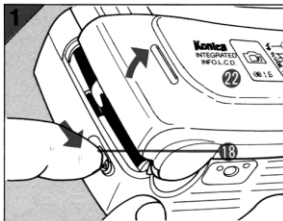
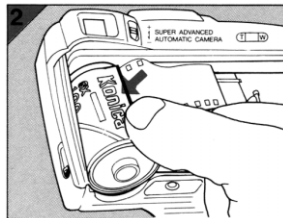
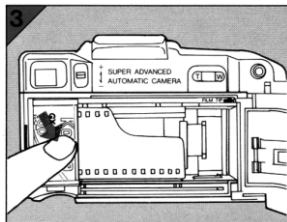
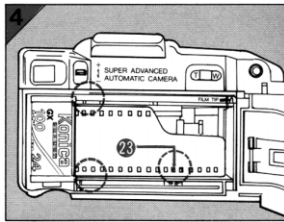
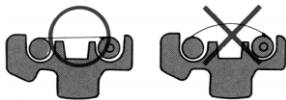
＊ リバーサルカラーフィルム(スライド用)はISO50、100、200、400をご使用ください。

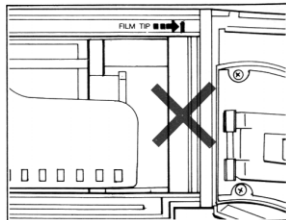
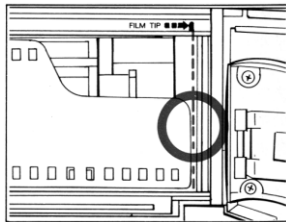
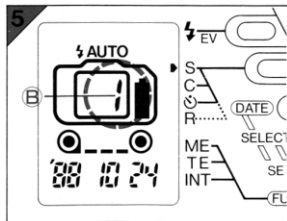
使用フィルムの感度と導入ISO

導入ISO感度	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度（ISO）	50	100	200	400	800	1600	3200
	64	125	250	500	1000	2000	—
	80	160	320	640	1280	2560	—

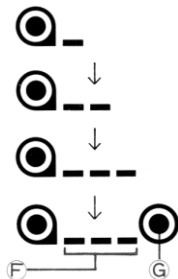
3．フィルムを入れてください

このカメラのオートロードは、フィルムをカメラに入れ、裏ぶたを閉じるだけで、１枚目の撮影位置までフィルムが自動的に送られるので、スピーディな入れ替えができます。

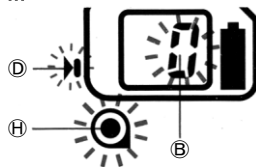
フィルムのセットは、メインスイッチのON・OFFに関係なくおこなえます。

1) 裏ぶた開放ノブ⑱を押し下げ、裏ぶた㉒を開けます。

2) フィルムを入れます。

3) パトローネ(フィルムの容器)を指で押さえ、フィルムが平らに出るようにします。

4) フィルム先端をカメラ内部のマーク(FILM TIP■■➡▮)に合わせ、フィルムのパーフォレーションがスプロケット㉓の歯にかみ合っていることを確認して、裏ぶたを閉じます。

＊ フィルム先端をマークよりあまり奥にセットしないでください。

5) 裏ぶたを閉じると同時に、フィルムは自動的に１枚目の撮影位置まで送られ、撮影表示パネルのフィルム枚数計Ⓑに ! が出ます。

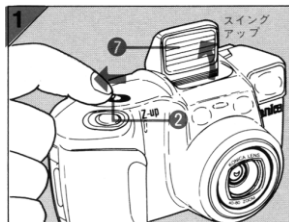
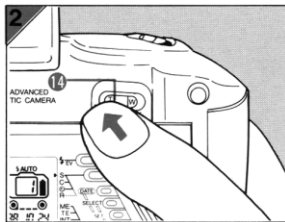
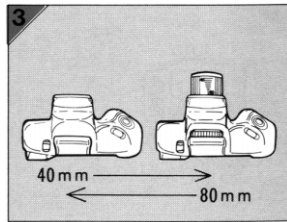
＊ フィルム在否確認窓⑳を見れば、フィルムが入っているかどうか、その種類も一目でわかります。

フィルムが正しく送られているときは…

撮影表示パネルのフィルム給送マークⒻが順次点灯した後、フィルム巻き取りマークⒼが点灯します。

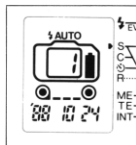
＊ メインスイッチOFFの場合は､約１秒後にデート表示以外消えますが、スイッチONで再び表示されます。

フィルムが送られていないときは…

フィルム給送マークⒻが一瞬現われた後消え、Ⓑフィルム枚数計、Ⓓ裏ぶた開放指示マーク、パトローネマークⒽが約10秒間点滅した後点灯しますから、フィルムを入れ直してください。

＊ メインスイッチOFFの場合は点滅の後消灯します。

4．ズームレンズの移動の仕方

1) メインスイッチ❷をスライドすると、フラッシュ❼がスイングアップし、レンズカバー⓬が開き、電源ONとなり、撮影表示パネルの液晶が点灯します。

2) シーソー式のズームスイッチ⓮のＴ側を押すと、レンズが広角(WIDE)から望遠(TELE)へ、Ｗ側を押すと望遠から広角へと自動的に連続して変化します。

3) ファインダーの視野も、レンズに連動して変わりますから、ファインダーをのぞきながら、希望の画角位置で指を離し止めてください。

＊ フラッシュを閉じれば電源OFFとなり、自動的にレンズカバーが閉じ、レンズが広角に移動します。

＊ フラッシュ充電中はレンズの移動ができません。

広角40mm

望遠80mm
同じ位置から撮影

● 狭い場所での集合人物や、周囲の環境を入れたいスナップ撮影などには、広角が適します。

● 遠いものをひきつけて大きく写すには、望遠が適します。

● 望遠で近接して写せば、マクロ撮影ができます。

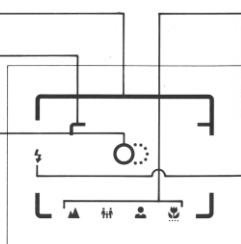
● 広角レンズで写したら、もう1枚同じ場所から望遠レンズで写しておくと、いっそう写真を楽しめます。

5．ファインダーの見方

撮影範囲フレーム
このフレームの範囲内が実際に写ります。

近接修正マーク
至近距離0.6mの撮影のときは、このマークの内側が写る範囲になります。

オートフォーカスフレーム
ピントを合わせたい被写体をこのフレームに完全におおうように入れて撮影します。
右側の点丸は近接撮影時のフレーム位置です。

ファインダー倍率：
ズームレンズの画角変化に連動して、ファインダーの倍率が変わり、どの焦点距離を使用する場合も、ファインダーに見えるまま写ります。

ゾーンフォーカススランプ()
(AE/AFロックおよび近距離警告)

点灯： 正しく撮影できるときは、シャッターボタンを半押ししたとき、ランプの一つが点灯します。マークによっておよその距離がわかります。このときフォーカスもAEもロックされます。

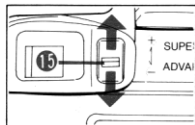
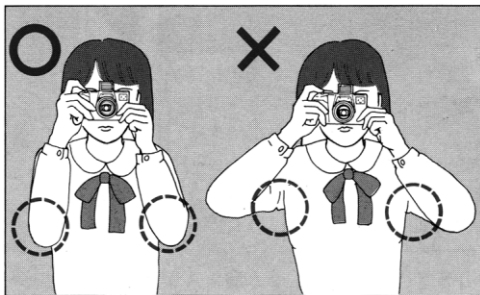
点滅： 被写体が0.6mより近すぎてピントが合わないとき、シャッターボタン半押しでランプが点滅して警告し、シャッターがロックされます。

フラッシュランプ(ϟ)
(フラッシュ切替えと低輝度警告)

点灯： 暗いときや逆光のように中央の暗い被写体では、シャッターボタン半押しでϟランプが点灯しフラッシュ撮影に切替わります。
フラッシュONモード(ϟON)では、シャッターボタン半押しで常時ϟランプが点灯。フラッシュ充電中はシャッターボタンに関係なく点灯し、充電完了で消灯します。

点滅： フラッシュOFFモード(ϟOFF)で点滅するときは、暗すぎて露出アンダーになるという警告です。

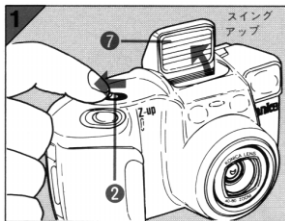
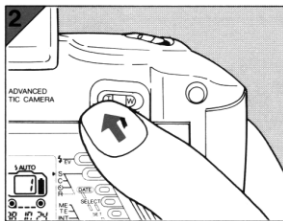
6．正しい構え方

視度調整について

近視、遠視の方は、視度調整ノブ⑮を上下して、ファインダー視野が眼鏡なしではっきり見える位置に調整してください。＋0.5〜-2.5ディオプターの範囲で調整できます。

カメラ背部を額に当て、両ヒジを軽くしめると、安定します。

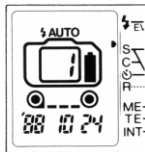
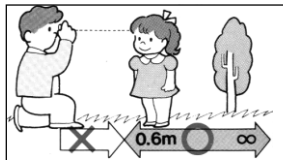
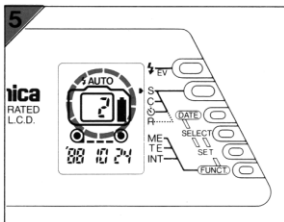
両ひじを開くと不安定で、カメラがぶれやすくなります。

＊ タテ位置撮影の場合も、ヨコ位置と同様にヒジを軽くしめてカメラを安定させてください。

＊ 指や毛髪、ストラップなどがレンズやオートフォーカス窓、AE受光窓、フラッシュをジャマしないように気をつけましょう。

7．いよいよ撮影です

1) まず、メインスイッチ❷をスライドしてください。フラッシュ❼のスイングアップと同時にレンズカバーが開き、電源ONとなり、撮影表示パネルの液晶が点灯します。

2) ファインダー接眼窓⑯をのぞいてズームスイッチ⑭を押し、希望の構図になるようにレンズをズーミングさせてください。

3) ピントを合わせたい被写体がオートフォーカスフレームをおおうように中央に入れます。

日中撮影の距離

4) シャッターボタン❸を半押しすると、ファインダー内のゾーンフォーカスランプ(⛰ 👪 👤 🌷)の一つが点灯し、自動的にピントが合ったことと、撮影距離の目安を示します。

5) シャッターボタンをさらに深く静かに押し込むとシャッターがきれて撮影が終了し、同時にフィルムが１コマ分自動的に巻き上げられ、フィルム枚数計が１コマ進みます。

＊ 撮影が終わったら、フラッシュを閉じてください。レンズが引っ込み、レンズカバーが閉じて電源OFFとなります。

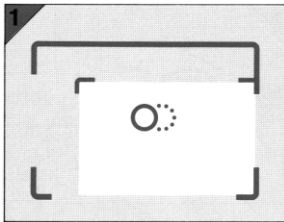
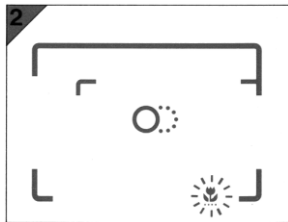
シャッターボタン半押しで、🌷ランプが点滅したときは：

被写体が近すぎてピントが合わないという警告です。

シャッターボタン半押しで、ゾーンフォーカスランプと同時に ⚡ ランプが点灯したときは：

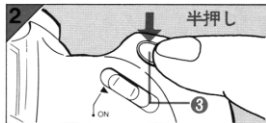
AE撮影では暗すぎるとき、または逆光などで画面中央が暗いとき、⚡ランプが点灯して自動的にフラッシュ撮影に切替わります。

8．マクロ撮影（なるべく近づいて大きく写したいときに）

このカメラは、0.6ｍまでのマクロ撮影ができます。至近距離で写すと、写真のように花などを大きく写し込むことができます。レンズを望遠80㎜にして写すと、最もマクロ効果が出ます。

1) 至近距離0.6ｍの撮影では、オートフォーカスフレームが右側の点線で示された丸の位置に移動しますから、この点線の丸が被写体をおおうように入れてください。
撮影範囲は近接修正マークの内側になります。この範囲で構図を決めてください。

2) シャッターボタン半押しで、ランプが点滅したときは、被写体が0.6ｍより近過ぎてピントが合わないという警告で、シャッターがロックされます。少し離れて写してください。

9．フォーカスロック撮影（被写体を画面中央からはずして写したいときに）

２人の記念撮影やスナップで画面の両側に人物を入れたい場合、バックの風景を中央に入れ人物を端に置きたい場合など、フォーカスロック撮影をすれば、オートフォーカスフレームから被写体をはずしてもシャープに写すことができます。

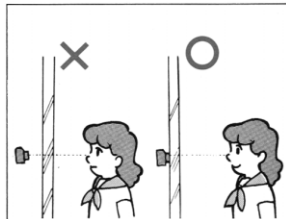
1) オートフォーカスフレームに、ピントを合わせたい被写体をおおうように入れます。

2) シャッターボタン❸を半押しすると、ゾーンフォーカスランプが点灯、同時にピントが合い、ピント位置が固定されます。

3) 半押しのままカメラの方向を変えて構図を決め直し、シャッターボタンを深く押して撮影してください。オートフォーカスフレームのなかに被写体がなくてもピントが合います。

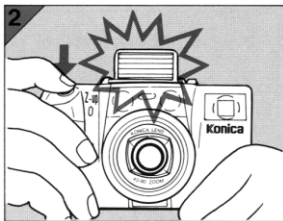
＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、何回でもやり直しができます。

＊ フォーカスロックをした後、被写体までの距離を変えると、ピントが合わなくなりますのでご注意ください。

＊ フォーカスロックと同時にAEもロックされます。

● 黒い髪のように反射しにくいもの、車のボディーなど光沢のあるもの、ローソクの焔などの発光体、小さいもの、細いものは、オートフォーカスが正しく働かないことがあります。こうした撮影では、等距離にあって同程度に明るく、測距しやすいものに向けてフォーカスロックし、向け直して撮影すると正しい測距ができます。

● ガラス越しの撮影は、カメラをガラスに密着させるか、ガラスに対して斜めから写せば正しい測距ができますが、フォーカスロック撮影も有効です。

10. フラッシュ撮影（暗いとき、逆光のときに自動発光）

1) 室内など光量が少ないところや、逆光などで画面の中央部が周辺より極端に暗いところでは、シャッターボタン❸を半押ししたとき、ファインダー内のϟランプが点灯しフラッシュ撮影に切替わったことを示します。ゾーンフォーカスランプも同時に点灯します。

2) シャッターボタンを、そのままいっぱいに静かに押し下げてフラッシュ撮影をしてください。

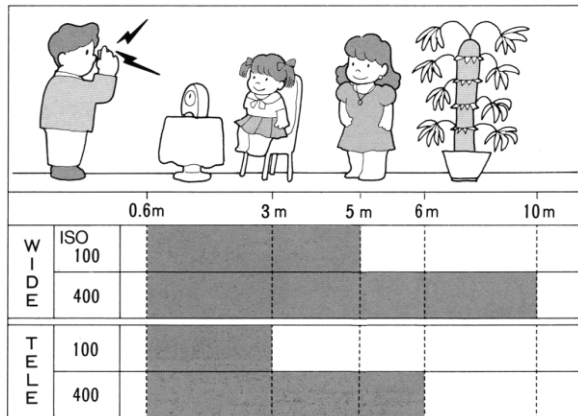
＊ フラッシュ撮影後、約３秒間ϟランプが点灯しゾーンフォーカスランプは消灯します。この間は充電中であることを示し、シャッターがロックされ、ズーミングもできません。

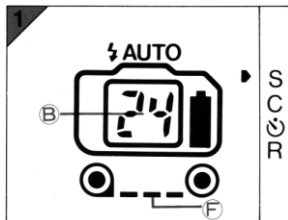
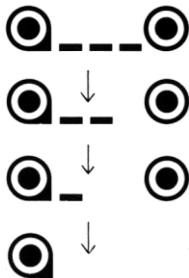
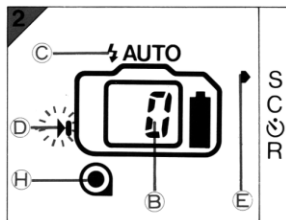
＊ 連続してフラッシュ撮影したとき、電池が温まると充電時間が多少長くなることがあります。

逆光時のフラッシュ自動発光

このカメラのフラッシュは、逆光の人物撮影のように画面の中央がバックより極端に暗いときにも自動発光します。フラッシュが人物に対する補助光として有効に働き、人物を美しく写すことができます。

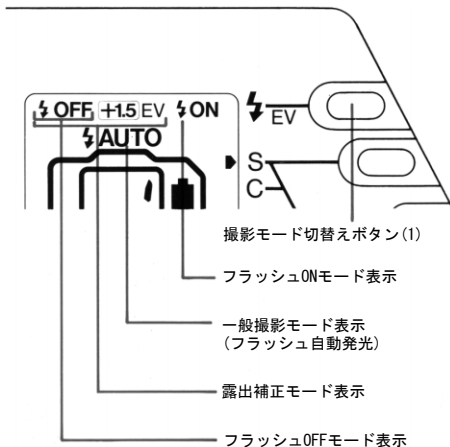
フラッシュ撮影距離範囲表

フイルム感度とレンズの種類によって、フラッシュ撮影の距離範囲が変わります。

＊ネガカラーフィルム使用時

11. フィルムの取り出し方

1) フィルムが最後になると自動的に巻き戻しが始まります。巻き戻し中、フィルム枚数計Ⓑは巻き戻しに連動して逆算し、フィルム給送マークⒻが順次点灯します。

＊ 巻き戻し中、フィルム給送マークは上図の点滅を繰り返します。

2) 巻き戻しが完了すると、モーターが自動的に停止し、裏ぶた開放指示マークⒹが現われて約10秒間点滅した後、フィルム枚数計Ⓑの 0、パトローネマークⒽ一般撮影モード表示Ⓒ、S (単写)指示マークⒺと共に点灯したままとなります。

3) 裏ぶた⑳を開けてフィルムを取り出します。フィルムを出したらフラッシュを閉じてください。レンズが引っ込み、レンズカバーが閉じます。

* 安全のため、巻き戻し中に誤ってシャッターボタンを押しても、シャッターがきれないようになっています。
* 撮影途中で巻き戻したいときは、途中巻き戻しモードの項をごらんください。

応用撮影 1　モード 1

このモードはフラッシュ自動発光の一般撮影と、日中フラッシュ撮影、夕、夜景のAE撮影、露出補正による逆光撮影などに使用されます。電源をONとして撮影モード切替えボタン(1)を押すと、そのたびに４つのモードが順次点灯し循環します。

↓

AUTO：一般撮影モード(フラッシュ自動発光)

↓

ON：フラッシュONモード

↓

OFF：フラッシュOFFモード

↓

OFF＋1.5EV：露出補正モード

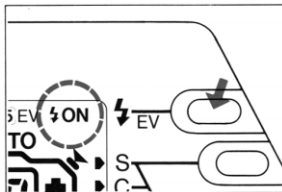
＊ どのモードでも１コマ写すと基本のAUTO(一般撮影モード)に自動復帰しますが、モードを固定することもできます。

＊ フラッシュ充電中はモードの切替えができません。

1．日中フラッシュ撮影(フラッシュONモード)

逆光や室内窓際の人物、くもりや日陰の人物には、日中フラッシュ撮影が効果的です。人物もバックも共に明るくきれいに写せます。

1) モード切替えボタン(1)を１回押すと、撮影表示パネルに⚡ONのマークが現われ、フラッシュONモードになります。

2) 普通のフラッシュ撮影と同様に撮影してください。明るいところでもフラッシュが発光します。

＊ １カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰します。
連続して日中フラッシュ撮影をしたいときは、モードを固定できます。

スローシャッターシンクロ

フラッシュONモードで夕、夜景をバックに人物を写すと、スローシャッターシンクロとなり、暗い背景も共に明るく、雰囲気を生かした美しい人物写真が写せます。

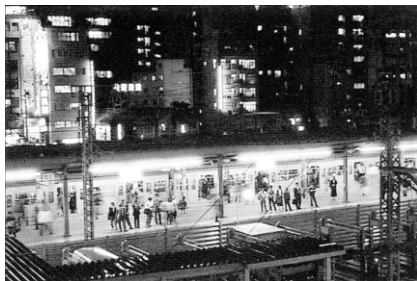
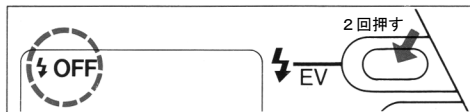
＊ スローシャッターシンクロではカメラぶれをしやすいので三脚をご使用ください。

フラッシュ使用

フラッシュなし

スローシャッターシンクロ

2．夕、夜景のAE撮影(フラッシュOFFモード)

このカメラは暗い場所でのAE撮影が可能です。フラッシュOFFモードにすれば、フラッシュを使わずに１秒までのスローシャッターによる夕景や都会の夜景など、雰囲気のある撮影ができます。

1) モード切替えボタン(1)を２回押すと、撮影表示パネルに ⚡OFFのマークが現われ、フラッシュOFFモードになります。

2) 日中撮影と同様に普通に撮影してください。暗いところでもフラッシュは発光せず、AE撮影ができます。

＊ １カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰します。
連続してフラッシュなしの撮影をしたいときは、モードを固定してください。

＊ スローシャッターによる撮影でカメラぶれをしやすいので三脚をご使用ください。

＊ シャッターボタンを半押ししたとき、⚡ランプが点滅したら、暗すぎて露出不足のため写真が暗くなるという警告です。
１秒以上の長時間露出をしたいときは、タイム露出をしてください。

３．露出補正の撮影(露出補正モード)

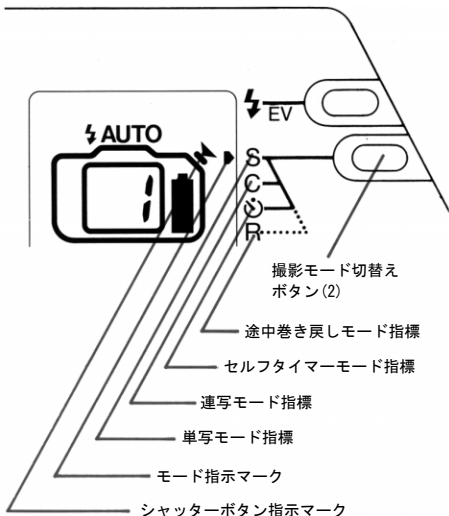
逆光などで人物よりバックが明るく、AE撮影では人物が暗くなるような場合、フラッシュを使わずに人物を明るく写すには、やや多目に露出をかける必要かあります。
雰囲気を生かした自然光撮影のための露出補正機構です。

1) モード切替えボタン(1)を３回押すと、撮影表示パネルに OFF＋1.5EVのマークが現われ露出補正モードになります。

＊ モード切替えボタン(1)をもう1回押すと、一般撮影モードに戻ります。

2) このモードで撮影すれば約1.5絞り多目に露出補正されたAE撮影がおこなわれ、明暗コントラストの大きな被写体でも暗部を明るく写すことができます。

＊ １カット撮影すると、一般撮影モードに自動復帰します。
連続して露出補正の撮影をしたいときは、モードを固定してください。

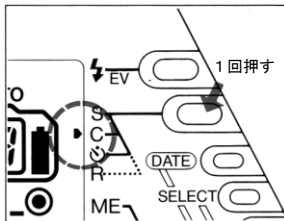
応用撮影２　モード２

このモードは連続撮影、セルフタイマー撮影をおこなうときに使用しますが、撮影途中の巻き戻しにも使うモードです。
電源をONにして撮影モード切替えボタン(2)を押すと、そのたびに指示マーク ▶ が移動して各モードを指し循環します。

Ｓ：単写モード(通常撮影)
↓
Ｃ：連写モード(連続撮影)
↓
セルフタイマーモード
↓
Ｒ：途中巻き戻しモード

＊ どの撮影モードでも１コマ写すと基本の単写モードに自動復帰しますが、モードを固定することもできます。

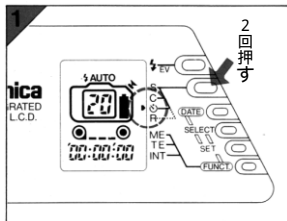
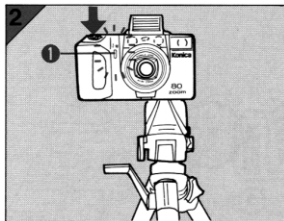
＊ Ｒ：途中巻き戻しモードの設定には特別な操作が必要です。このモードは固定できません。

1．連続撮影(連写モード)

動きのある被写体のスナップなど、次々と続けてシャッターをきりたい場合、シャッターボタンを押したままで連続撮影ができます。連写速度は１秒間に約２コマです。

1) モード切替えボタン(2)を１回押すと、撮影表示パネルの ▶ 印がS(単写)からC(連写)に移動し連写モードになります。

2) 被写体に向けてシャッターボタンを押したままで、シャッター作動とフィルム送りを繰り返し、何コマでも連続撮影ができます。

* フラッシュ撮影では、充電終了後次の撮影がおこなわれますから、間隔を置いた連続撮影となります。
* 撮影表示パネルのフィルム給送マークは、最後の１コマだけ表示され、フラッシュ撮影時には毎回表示されます。
* 一度指を離すと、S(単写)モードに自動復帰します。何回も連続撮影をしたいときは、モードの固定をしてください。

2．セルフタイマー撮影（セルフタイマーモード）

1) モード切替えボタン(2)を２回押すと、撮影表示パネルの▶印が⏱(セルフタイマーマーク)を指してセルフタイマーモードとなり、(シャッターボタン指示マーク)が現われます。

2) カメラを被写体に向けてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

3) スタートと同時にカメラ正面のセルフタイマーランプ❶が点灯し、約10秒後にシャッターがきれます。セルフタイマーランプは約７秒間点灯した後約３秒間点滅に変わります。

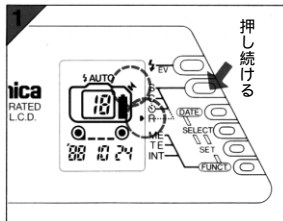
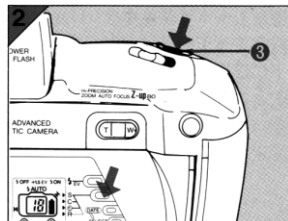
＊ １カット撮影すると、S(単写)モードに自動復帰します。
連続してセルフタイマー撮影をしたいときは、モードを固定してください。

＊ セルフタイマー撮影でもフラッシュは自動発光しますし、シャッターボタン半押しで、フォーカスロック、AEロックもできます。

＊ セルフタイマー作動中にキャンセルしたいときは、フラッシュを閉じてください。

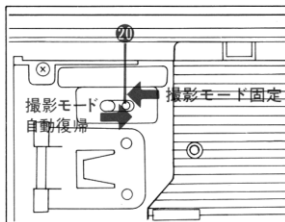
3．撮影途中の巻き戻し（途中巻き戻しモード）

＊ セルフタイマーのスタートは、カメラのうしろ側から操作してください。カメラの前からおこなうと、シャッターがロックされてしまいます。

＊ セルフタイマー撮影では、三脚をご使用ください。

1) モード切替えボタン(2)を押し、撮影表示パネルの印がC(連写)を指す位置で押し直し、約1秒間押し続けていると、印が(セルフタイマーマーク)からR(途中巻き戻しマーク)に移動し、(シャッターボタン指示マーク)が現われます。

2) モード切替えボタン(2)を押したまま、シャッターボタン❸を同時に押すと、途中巻き戻しモードとなり、フィルムが巻き戻されます。
この後は自動巻き戻しの場合と同じです。

＊ 始動したら指を離しても終わりまで巻き戻されます。

撮影モードの固定

撮影モード切替えボタン(1)、(2)で設定するモードは、どの撮影モードに設定してあっても１ショットごとに一般撮影モード、単写モードに自動復帰しますが、モードを固定することもできます。

1) フィルムを入れる前に、裏ぶた内側にあるモード固定スイッチ⑳のカバーをはずし、カバーの凸部でモード固定スイッチを左端に寄せてください。カバーは元の位置に差し込んでください。
2) フィルムセット後、モード切替えボタン(1)または(2)を押して、ご希望のモードを設定してください。これでモードは固定されますが、撮影途中でのモードの変更もできます。

＊ モードを固定してあっても、フラッシュを閉じて電源OFFにすると、固定されたモードは解除されます。
次の電源ONで一般撮影モードに自動復帰します。

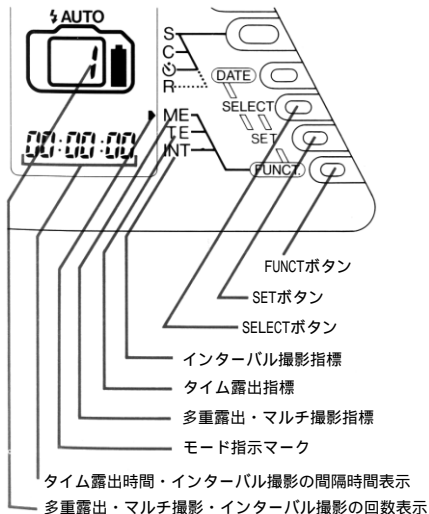
＊ 撮影後モード固定スイッチを右に寄せれば、モード自動復帰に戻ります。

＊ モードを固定したままでは電池の消耗を早めますので、モード固定の撮影が終ったら必ず自動復帰の位置に戻してください。

＊ フラッシュ充電中はモード切替えができません。

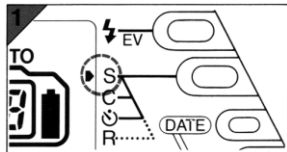
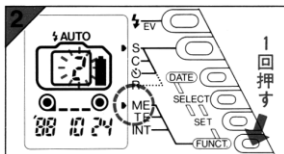
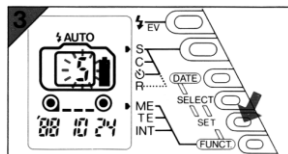
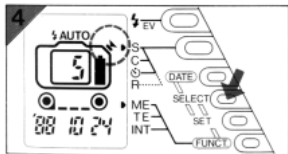
応用撮影３　モード３

⚡AUTO
S
C
R
DATE
SELECT
ME
TE
INT
SET
FUNCT.
00:00:00

FUNCTボタン
SETボタン
SELECTボタン
インターバル撮影指標
タイム露出指標
多重露出・マルチ撮影指標
モード指示マーク
タイム露出時間・インターバル撮影の間隔時間表示
多重露出・マルチ撮影・インターバル撮影の回数表示

このモードは、多重露出、マルチ撮影、タイム露出、インターバル撮影といった特殊撮影をおこなうためのモードです。
電源をONにしてFUNCTボタンを押すと、そのたびに指示マーク ▶ が移動して各モードを指し循環します。
希望のモードでSETボタンおよびSELECTボタンを操作し、回数、時間を選択、設定します。

＊ どのモードでも１コマ写すと基本の通常撮影モードに自動復帰します。
＊ フラッシュ充電中はモードの切替えができません。

1．マルチ撮影１ (多重露出撮影)

このカメラには、設定した回数シャッターボタンを押す間、フィルムは送られず、同一画面に多重露出のできる多重露出撮影モードが組み込まれています。

1) まず、S(単写)モードになっていることを確認してください。もし、他のモードになっていたら、撮影モード切替えボタン(2)を押して ▶ 印をS(単写)に合わせてください。

2) FUNCTボタンを１回押すと、撮影表示パネルの ▶ 印がME(マルチプル・エキスポージャー)を指し、フィルム枚数計に代わって露出回数の 2 が点滅します。

3) SETボタンを押すごとに露出回数が点滅したまま増えますから、希望の回数を選びます。39回まで設定できます。

4) 次にSELECTボタンを押すと、露出回数の数字が点滅から点灯に変わり、露出回数が設定され、同時に(シャッターボタン指示マーク)が現われます。設定した回数の撮影ができます。

＊ 撮影終了でマルチ撮影モードはキャンセルされます。

＊ 撮影回数設定後でも、撮影の途中でも、AUTO、ON、OFF、OFF＋1.5EVのどのモードにも切替えができシャッターをきっても自動復帰しません。

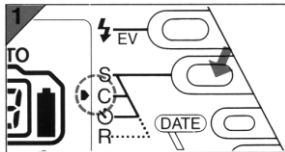
＊ Ｓモードで設定した後、Ｃモード(連写)への切替えはできますが、撮影途中での切替えはできません。

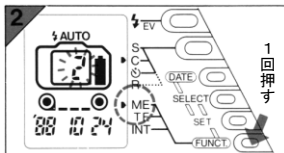
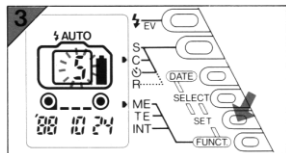
＊ 撮影表示パネルの回数表示は、撮影ごとに逆算されます。

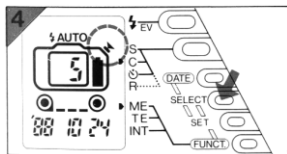
＊ 設定後のキャンセルは、フラッシュを閉じてください。

＊ 多重露出撮影では、例えば都会の夜景を写した後、夜空に浮かぶ飛行船を写し込むといったモンタージュ写真、あるいは暗いバックの前で、同じ人物が一画面に何人もいるといったトリック撮影など、アイデアを生かした撮影ができます。

2．マルチ撮影２

このカメラには、シャッターボタンを一度押すだけで、連続して同一画面に設定した回数の多重露出ができる、マルチ撮影モードが組み込まれています。

1) 撮影モード切替えボタン(2)を押して ▶ 印をＣ(連写)モードに合わせてください。

＊ この操作は、撮影回数設定後でもできます。

2) FUNCTボタンを１回押すと、撮影表示パネルの ▶ 印がME(マルチプル・エキスポージャー)を指し、フィルム枚数計に代わって露出回数の 2 が点滅します。

3) SETボタンを押すごとに露出回数が点滅したまま増えますから、希望の回数を選びます。39回まで設定できます。

＊ 撮影表示パネルの回数表示は、撮影ごとに逆算されます。

4) SELECTボタンを押すと・露出回数の数字が点滅から点灯に変わり、露出回数が設定されます。同時に(シャッターボタン指示マーク)が現われます。

5) カメラを被写体に向け、チャンスを待って一度シャッターボタンを押すと、設定した回数連続してシャッターがきれ、マルチ撮影ができます。

＊ マルチ撮影では⚡AUTO、⚡ON、⚡OFF、⚡OFF＋1.5EVのどのモードにも撮影回数設定後切替えることができます。

＊ フラッシュ撮影による連写では、１ショット目のみフラッシュが発光し、２回目以降はフラッシュは発光しません。

＊ 撮影終了でマルチ撮影モードはキャンセルされます。

＊ 設定後にキャンセルしたいときはフラッシュを閉じてください。

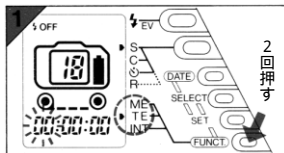
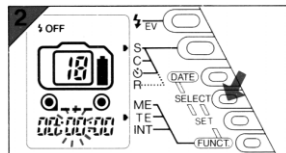
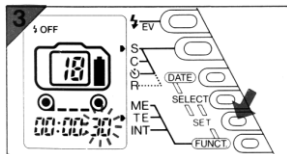
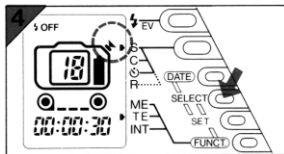
＊ マルチ撮影では、全体の露出量が適正の２倍を越えないように設定してあります。

＊ マルチ撮影では、黒または暗いバックで動く被写体だけを明るい条件で写してください。

＊ 日中撮影での露出回数は10回程度を目安にして、スポーツなどの動きが撮影できます。

＊ マルチ撮影ではカメラぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。

３．タイム露出

２秒から数時間にわたる長時間露出をしたいときのモードです。夜間の遠景や星野の撮影、花火の撮影などにご活用ください。

1) FUNCTボタンを２回押すと、撮影表示パネルの▶印がTE(タイム露出)を指し、オートデート表示に代わって、露出時間を示す
00(時)：00(分)：00(秒)
が現われ、(時)が点滅します。

2) SELECTボタンを押すごとに分・秒・時が順次点滅し循環します。希望の時・分・秒を点滅させてください。

3) SETボタンを押して、秒数、分数、または時数を設定してください。一度押すと１秒(分、時)ごと、押し続けると早送りされ、２秒から99時間までのタイム露出を設定できます。

4) ここで再びSELECTボタンを押すと、時間の数字が点滅から点灯に変わり、(シャッターボタン指示マーク)が現われます。

＊ 誤ってセットした場合はもう一度SELECTボタンを押すと1)に戻り、セットのやり直しができます。

5) 被写体に向けてシャッターボタンを押すと、決められた時間シャッターが開き、長時間のタイム露出ができます。

＊ 撮影終了でタイム露出モードはキャンセルされます。

＊ タイム露出では撮影モードに関係なく、OFF、Ｓ(単写)に自動セットされます。

＊ タイム露出では必ず三脚をお使いください。

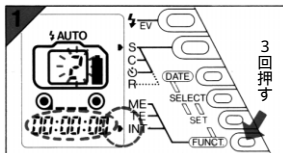
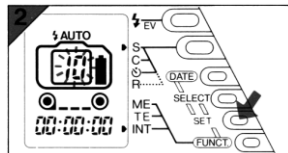
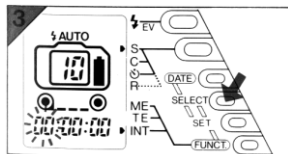
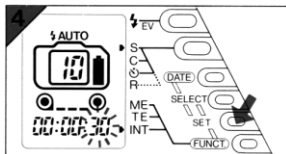
＊ 設定後にキャンセルしたいときは、フラッシュを閉じてください。

4．インターバル撮影

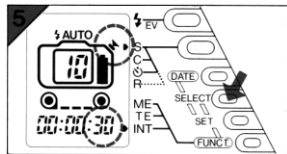
一定間隔の時間ごとに、１コマずつ繰り返して自動的にシャッターが作動するインターバルタイマーが内蔵されています。開花の状況や動植物の生態、あるいは天候の変化など、一度セットすれば、あとは手をふれずに正確な時間間隔の撮影をします。

＊ インターバル撮影では、必ず三脚をお使いください。

＊ 電池マークが点滅している(電池消耗)時はインターバル撮影ができません。

＊ 撮影終了でインターバル撮影モードはキャンセルされます。

1) FUNCTボタンを３回押すと、撮影表示パネルの▶印がINT(インターバルタイマー)を指し、オートデート表示に代わって、撮影間隔を示す
00(時)：00(分)：00(秒)
が現われ、同時にフィルム枚数計に代わって撮影回数を示す2が現われ点滅します。

2) SETボタンを押して、撮影回数を設定してください。

3) SELECTボタンを押すと、撮影回数が点灯に変わり、時が点滅します。ボタンを押すごとに分・秒・時が順次点滅し循環します。希望の時・分・秒を点滅させてください。

4) SETボタンを押して、秒数、分数または時数を設定してください。一度押すと１秒(分、時)ごと、押し続けると早送りされ、10秒から99時間までの撮影間隔を設定できます。

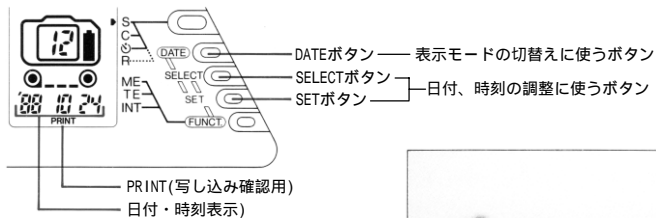
＊ インターバルタイムは、10秒以下に設定しても、最短単位の10秒になります。

＊ 設定後にキャンセルしたいときは、フラッシュを閉じてください。

5) ここで再びSELECTボタンを押すと、時間の数字が点滅から点灯に変わり、(シャッターボタン指示マーク)が現われます。

＊ 誤ってセットした場合はもう一度SELECTボタンを押すと1)に戻り、やり直しができます。

6) 被写体に向けてシャッターボタンを押すと、約１秒後に１枚撮影された後、決められた時間ごとにシャッターが作動します。

＊ ϟAUTO、S(単写)に自動セットされますが、ϟON、ϟOFF、ϟOFF＋1.5EVへの変更もできます。

オートデート

このカメラは、2019年12月31日までの日付、時刻を自動的に記憶するクオーツ制御のオートデート機構を組み込んでいます。撮影表示パネルで写し込みデータを表示し、これと同じデータを画面に写し込むことができます。

1．表示モードの切替え

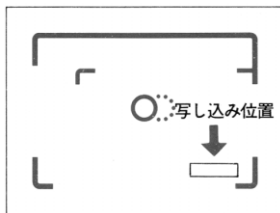
1) メインスイッチをスライドして電源ONにしてください。

＊ オートデートは電源OFFでも働いていますが、表示モードの切替えと日付・時刻の調整は電源をONにしないとできません。

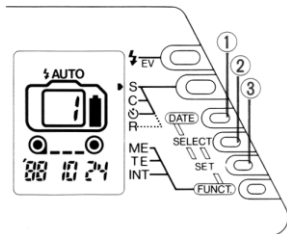
2) DATEボタンを１回押すごとに、図のように５つのモードが循環して切替わり表示されます。

写し込み確認の表示

シャッターをきるのと同時に、デート数字の下にPRINTの文字が約３～４秒現われ、写し込み確認の合図をします。フィルム上にはプリントされません。

写し込みの位置とバック

ファインダーでのぞいて日付、時刻の写し込まれるおよその位置は、図のとおりです。
写し込み位置のバックが明るい場合や白い場合は、写し込み文字がはっきり出ないことがありますからご注意ください。

２．日付・時刻の調整

海外で時差に合わせるときは、日付だけでなく、時刻も合わせてください。

“年・月・日”の合わせ方

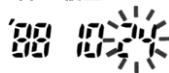
<年>の調整

1) DATEボタン①を押してパネルに年・月・日を出します。
2) SELECTボタン②を一度押すと年が点滅します。
3) SETボタン③を押して正しい年を出してください。一度押すと１年ずつ、押し続けると早送りされます。('88⇄'19)

['88＝1988年、'19＝2019年]

<月>の調整

4) SELECTボタン②をもう一度押すと、点滅が月に移動します。
5) 年と同じ要領でSETボタン③を押し、月を合わせてください。(１⇄12)

<日>の調整

6) SELECTボタン②をさらにもう一度押すと点滅が日に移動します。
7) 月と同じ要領でSETボタン③を押し、日を合わせてください。(1⇄31)
8) 以上の年・月・日の調整が終わったらSELECTボタン②をもう一度押してください。日の点滅が点灯になり、年・月・日写し込みの状態になります。

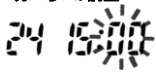
＊ 年・月・日の調整をおこなうと、月・日・年、日・月・年のモードも自動的に調整されます。

＊ 日・時・分のモードは日付だけ自動的に調整されます。

“時・分・秒”の合わせ方

<時>の調整

1) DATEボタン①を押してパネルに日・時・分を出しておきます。
2) SELECTボタン②を一度押すと時が点滅します。
3) SETボタン③を押して正しい時を出してください。一度押すと１時間ずつ、押し続けると早送りされます。(０⇄23)

<分><秒>の調整

4) SELECTボタン②をもう一度押すと点滅が分に移動します。
5) 時と同じ要領でSETボタン③を押し、分を合わせてください。(00⇄59)
6) 分を合わせた後、テレビ、ラジオの時報に合わせてSELECTボタン②を押すと、分の点滅が止まり、15時の時報の場合は15:00ジャストにセットされます。これで正しい日・時・分写し込みの状態になります。

＊ 日付の調整は年・月・日のモードでおこなってください。

＊ オートデートの電源は、カメラ本体と共用のリチウム電池です。

＊ 電池を交換した後は、必ず年・月・日、時・分・秒の調整をしてください。

専用アクセサリー

● **コニカフィルター(38㎜)ソフトンフィルター**

レンズ前面に取付け、女性などを軟かく描写して、雰囲気のある写真を写します。

スノークロスフィルター

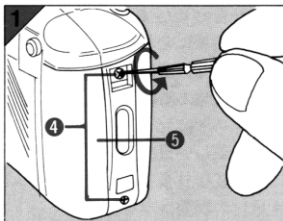
レンズ前面に取付け、光った部分に美しいフレアーを出す軟焦点描写用のフィルターです。

● **ケーブルスイッチ**

ケーブルスイッチソケットに取付け、カメラから離れてシャッターがきれます。スローシャッターによる撮影時に、カメラぶれを防ぐため三脚と共にご使用ください。

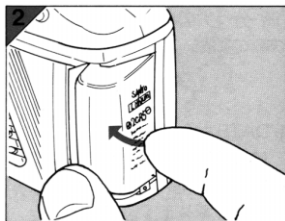
電池交換の方法

電池マークが1/2白くなり、点滅を始めたら電池を交換してください。
使用電池はリチウム電池(2CR5：6V) 1コで、カメラ本体とオートデート兼用の単一電源です。

* **電池の交換はフィルムが入っていないとき、フラッシュをスイングアップしたままおこなってください。**
* 撮影の途中で電池マークが点滅をはじめたら、そのまま最後まで撮影した後、電池を交換してください。
* 万一、撮影途中で電池マークが白くなりシャッターがロックされても、途中巻き戻しはできます。
* 電池を交換した後は、必ずオートデートを調整してください。

1) 小型のドライバーまたはストラップ取付け環の凸部で、上下2ヵ所の電池室カバー止めねじ❹をゆるめ、電池室カバー❺をはずし電池を取り出してください。

* 液晶パネル表示がすべて消灯するのを確認してから、新しい電池を入れてください。

2) 正しく電池を入れます。

* このときレンズカバーが作動します。作動しないときは、一度電池を入れ直してください。

3) 電池室カバーをはめ込み、ねじで止めます。

* 正しく電池がセットされると、撮影表示パネルの
  ①オートデートが
  '88 ! !の数字で点灯し、
  メインスイッチONで、
  ②▮(電池マーク)
  ③ϟAUTO(一般撮影モード表示)
  ④▯(フィルム枚数計の数字)
  ⑤▶(Sを指示するマーク)
  が点灯します。

性能表

形式	35㎜判レンズシャッター　ズームレンズ付オートフォーカスAEカメラ 自動切替えのフラッシュ内蔵　電動式巻き上げ巻き戻し機構内蔵　ISO感度自動導入　多重露出、マルチ、インターバル、タイム露出可能　液晶表示付　オートデート機構内蔵　レンズカバー内蔵
画面サイズ	24×36㎜(J135)パトローネ入り
レンズ	コニカズームレンズ　40㎜F3.8～80㎜ F7.2(7群8枚構成)　シーソー式ボタン操作でズーム駆動(無段階)
メインスイッチ	メインスイッチONでフラッシュがスイングアップし、レンズカバーが開き、シャッターロック解除　フラッシュを閉じるとレンズが広角に戻り、レンズカバーが閉じてシャッターロック
シャッター	マイクロモーター駆動プログラム電子シャッター　1秒～1/500秒 電磁レリーズ　フラッシュ閉じ時・近距離連動範囲外時・電圧低下時・フラッシュ未充電時シャッターロック
ファインダー	採光式ブライトフレーム式ズームファインダー　視野率80%以上　倍率：×0.45～×0.82　レンズの焦点距離変動に連動して視野自動変換　オートフォーカスフレーム　近接修正マーク(0.6m)シャッターボタン半押しでAE、AFロック ゾーンフォーカスランプ(▲・👪・👤・🌷の4点)のいずれかが点灯 0.6m以内のレリーズロック時🌷ランプ点滅、フラッシュ自動切替え時およびフラッシュONモード時ϟランプ点灯、フラッシュOFFモードでの低輝度連動範囲外の警告時ϟランプ点滅　フラッシュ未充電時はϟランプ点灯し充電完了で消灯　視度調整装置付(+0.5D～−2.5D)
焦点調節	赤外線ノンスキャン・アクティブ式自動焦点　直進駆動式　撮影距離：0.6m～∞　シャッターボタン半押しでフォーカスロック可能
AE調節	SPD受光素子使用プログラムAE　中央重点測光　+EV1.5の露出補正装置付　逆光検知機能付
AE連動範囲	ISO 100：f=40㎜ EV4(F3.8 1秒)～EV18(F22 1/500秒) f=80㎜ EV5.6(F7.2 1秒)～EV18(F30 1/350秒) EV9.4～EV11.8でフラッシュマチックに自動切替え

フィルム感度	DXフィルム使用時：ISO 50～ISO 3200 自動セット　非DXフィルム使用時：ISO 100に固定
フィルム給送	内蔵モーターによる電動式　裏ぶた閉じでスタートするオートローディング　自動巻き上げ　フィルム終了でオートリターン巻き戻し後自動停止　途中巻き戻しも可能　2コマ/秒の連続撮影可能
フィルム枚数計	順算自動復元式　液晶パネルに表示　巻き戻し逆算表示
セルフタイマー	電子式　作動時間：約10秒　カメラ前面の赤ランプが最初の7秒間点灯した後3秒間点滅　途中解除可能
フラッシュ	スイングアップのフラッシュ内蔵、手振れ限界の低輝度時および逆光時に自動発光するフラッシュマチック機構　連動範囲：(ISO 100) 0.6～5m　発光間隔：約3秒　フラッシュONモード、フラッシュOFFモードに切替え可能
特殊撮影	多重露出撮影・マルチ撮影(2～39回)、タイム露出(2秒～99時間)　インターバルタイマー撮影(10秒～99時間)
撮影表示パネル	フィルム枚数計、ミスローディング時巻き戻し終了時裏ぶた開放指示マーク　フィルム給送表示　電源チェック　オートデート表示　フラッシュAUTO→フラッシュON→フラッシュOFF→フラッシュOFF＋露出補正の4モード循環表示、単写→連写→セルフタイマー→(途中巻き戻し)の4モード循環表示　多重露出→マルチ撮影→タイム露出→インターバル撮影→特殊モード解除の4モード循環表示
オートデート	液晶表示式デジタルウォッチ内蔵　西暦2019年までの年月日・日時分・写し込みなし・月日年・日月年の5モードを循環　撮影表示パネル下段に表示　写し込み確認表示付　日付、時刻は秒単位まで調整可能
撮影可能本数	50%フラッシュ発光のとき：約30本(24枚撮りフィルム)
電源	リチウム電池(2CR5：6V)1コ　カメラ作動と撮影情報表示、オートデート表示を兼ねる単一電源
大きさ・重さ	138.5×85.0×73.0mm　485g(電池込)

＊上記の性能については当社試験条件によります。　＊製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。